

「職場で大切なのは報告、連絡、相談。休日に仕事が入ればプライベートより優先させます」

香川県三木町の香川大学院農学研究所。日本の会社で働く心構えを尋ねる外部講師に、タイ人留学生ウォンウォーラパット・グライセートさん(24)が答える。

県内で盛んな冷凍食品製造の技術などを学び、就職につなげる留学生特別コースの2年生。母国の大学を経て2011年秋に入学した。地元銀行OBの外部講師からビジネスマナーやチームワークの大切さも教わり、日本企業への「定着」を意識するようになった。

コースには現在、ベトナム、中国など5カ国の9人が在籍。09年の開設以来計10人が卒業し、食品メーカーなどで働く。就職率は100%。当初からリーダーを務める教授の田村啓敏さん(55)は「留学生の就職率は国内

見えない隣人

在日外国人と地域

第3部 学ぶ

⑦ 就職率100%

全体で20%台だけに、誇れる数字」と話す。

も独自に続けている。事業運営で大きな役割を担うのが、企業との「コンソーシアム(連合体)」

トとなる。田村さんは「学生の能力や人柄にある程度触れた上で、採用を検討してくれる。ゼロから始まる一般的な就職活動より有利」と強調する。

を得る可能性は高いという。密接な情報交換を通じてきた田村さん。コース運営に企業側のニーズを反映させることを忘れない。日本への定着意欲を高めるビジネス教育はその柱だ。

特別コースはもともと経済産業省などが07年に始めた「高度専門留学生育成事業」の一環で、アジアの優秀な「頭脳」を企業の成長に役立てる狙いだった。国の枠組みは09年の事業仕分けで廃止されたが、着手した約20大学・大学院の多くは今

卒業を今秋に控えるウォンウォーラパットさんは、タイに拠点を持つ食品メーカー3社を受験した。いずれもコンソーシアムと関係があり、内定

企業との成長に役立てる狙いだった。国の枠組みは09年の事業仕分けで廃止されたが、着手した約20大学・大学院の多くは今

転職によるキャリアアップ志向が強い留学生は、採用を敬遠されることもある。ウォンウォーラパットさんも以前は転職志望だったが、香川大で終身雇用制度について学び、同じ会社に長く勤めた方が力がつき、待遇も良くなる―と理解した。



特別コースで学び、ウォンウォーラパットさん(右)は日本企業で働き続ける気持ちを固めた

現在の夢は冷凍食品の開発に携わり、「新しい味」をつくること。日本の働き方になじんだ上で、実現したいと思っている。

「連合体」生かし定着へ